



食育たより

令和7年1月号

郷町立学校給食センター

新年あけましておめでとうございます。

今年も、子どもたちの心と体の健康と成長のために、安心・安全でおいしい給食づくりに努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

全国学校給食週間です!



1月24～30日までの1週間は「全国学校給食週間」です。学校給食は、明治22（1889）年に山形県鶴岡市で初めて実施されて以来、各地に広がりましたが、戦争のため中断されました。戦後、食糧難による子どもの栄養状態の悪化を背景に、給食実施の必要性が指摘され、世界からも給食用物資の寄贈がありました。そして昭和22（1947）年、ついに学校給食は再開されたのです。世界からの善意に感謝の気持ちをあらためて示すとともに、学校給食が戦後再びスタートできたことの意義を考え、その発展を期し、また日本の学校給食の一番の特徴といえる教育の一環として給食が行われていることを、子どもたちだけでなく学校関係者全員があらためて再確認の意味でも、この「全国学校給食週間」の取り組みを大切にしたいと思います。

子どもたちの食生活を取り巻く環境が変化し、食塩のとりすぎ、肥満傾向や逆に若年女性のやせなどが懸念されている今日、学校給食は子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるためにとても重要な役割を果たしています。

龍郷町給食センターでは

学校給食週間の取組として、奄美大島や鹿児島県の地場産物を活用した料理や郷土料理を献立に組み入れています。

朝早く給食センターに納入される食材を子どもたちに直接見せられないので、写真を学校へお届けする予定です。食べ物が私たちの口に入る前の姿や、生産、加工に携わる人たちのことを想像しながら給食を食べてもらいたいと思います。

給食週間中の献立

- 20日・・・さつまいもごはん 大根のそぼろ煮 油うどん
- 21日・・・鶏飯 切干大根のきび酢和え ねったぼ
- 22日・・・麦ごはん さつま汁 しびのからし醤油 パパイア炒め
- 23日・・・麦ごはん マダ汁 豚骨の煮物 ふだん草の煮びたし
- 24日・・・麦ごはん 魚汁 フル入り卵みそ 手作りかん

全国学校給食週間



1月24日から30日までは全国学校給食週間です。学校給食の意義や役割についての理解と関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に行われています。

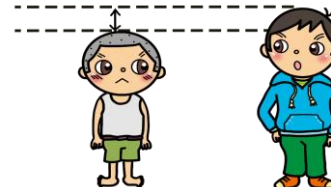
昭和20（1945）年、戦争が終わったばかりの日本では食料が不足し、栄養不足の子どもたちがたくさんいました。給食も戦争で中断されたままでした。



この日本の様子を見て、外国から食べ物の援助がたくさん送られてきました。こうして昭和21（1946）年12月24日、学校給食がふたたび始まりました。



そのころの小学6年生の体は、今の小学4年生くらいの大きさだったといいます。



12月24日は学校が冬休みなので、1ヵ月遅らせた1月24日から「全国学校給食週間」が行われます。給食に感謝し、その意義と役割を再確認する1週間です。



全国学校給食週間に
知りたい

あげパンのはなし

①



お父さんやお母さんに「子どもの頃、好きだった給食なあに?」と聞くと、真っ先に挙がるのが「あげパン」です。このあげパン、どのようにして誕生したか知っていますか?

②



あげパンが生まれたのは、戦争が終わり、給食が再び始まって間もない東京都大田区。当時の子どもたちはいつもおなかをすかせていました。給食はそんな子どもたちにとって一番の楽しみでした。

③



ある日、なぜで学校を休んだ子がいました。調理員さんは「せっかく楽しみにしていたのに…」と、残ったパンを揚げて砂糖をまぶし、包んでその子の家に届けてもらったそうです。

④



おいしいあげパンはあっという間に日本中に広まりました。あげパンが生まれた陰には、子どもたちのことをいつも大切に考えながら給食の仕事に携わる人たちの温かい気持ちがあったのです。